

2026年5月1日

各位

本店所在地	東京都港区赤坂九丁目7番2号
会社名	ネクセラファーマ株式会社 (コード番号 4565 東証プライム)
代表者	代表執行役社長 CEO クリストファー・カーギル
問い合わせ先	IR部 都築伸弥
電話番号	03-5962-5718 (代表)

2026年12月期第1四半期(1月-3月) ビジネスハイライトおよび連結業績について

ネクセラファーマ株式会社(以下「当社」)は本日、2026年12月期第1四半期(1月-3月)における事業の概況および連結業績を発表しましたので、お知らせいたします。2026年12月期第1四半期決算短信[IFRS](連結)全文は[こちら](#)をご覧ください。

当社代表執行役社長 CEO であるクリストファー・カーギルは次のように述べています。「当社は、事業全般にわたる力強い進捗を2026年第1四半期に達成しました。日本及びAPACのコマーシャル事業においては、主要なアジア太平洋地域においてデュシェンヌ型筋ジストロフィーの患者さまにvamoroloneをお届けするために、サンセラ社と重要な契約を締結しました。これは、当社が同地域におけるスペシャリティファーマ事業の構築に向けた戦略を着実に実行していることを示すとともに、当社の開発力および商業化能力を活かして、アンメットメディカルニーズの高い領域で成長機会を捉えていることを明確に示すものです。

英国の創薬事業においても、提携パイプラインおよび自社パイプラインの双方において、着実な進展を実現しており、当社のプラットフォームおよびパートナーシップの価値を裏付ける複数のマイルストーンも達成しました。加えて、2019年に開発したオレキシン受容体作動薬を軸に当社からスピアウトしたOrexia社(現Centessa Pharmaceuticals Limited、以下「センテッサ社」)が、3月31日にEli Lilly and Company(以下「リリー社」)に最大78億ドル(約1.2兆円)で買収されると発表されました。当社は当該パイプラインからの将来的なマイルストーン、ロイヤルティ収入を得る権利とともに、センテッサ社の株式の一部を保有しております。この力強いモメンタムと強化された財務基盤を背景に、2026年は患者さまおよび株主の皆さまのために持続的な成長と価値創造を推進する重要な年となると考えております。」

2026年12月期第1四半期(1月-3月)のビジネスハイライト

開発および商業化に関する契約

- サンセラ・ファーマシューティカルズ・ホールディングと、日本、韓国、オーストラリアおよびニュージーランドにおけるデュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)治療薬vamorolone(海外製品名AGAMREE®)の開発、製造および商業化に関するライセンス契約締結

- 不眠症と診断された成人および高齢者患者を対象にデュアルオレキシン受容体拮抗薬ダリドレキサントを評価した韓国での無作為化二重盲検プラセボ対照フェーズ3試験のトプライン結果において、良好な成績を発表。3月4日には同剤に関して、不眠症患者の治療を適応として韓国の食品医薬品安全処（MFDS）に製造販売承認申請を提出
- 欧州の著名なベンチャーキャピタルが新たに設立したベンチャー企業との間で、当社が創製・開発してきたGPCR 標的プログラムに関するライセンス契約締結
 - 当社は同社の株式を取得し、開発・販売の進捗等に応じたマイルストーン、ならびに上市後の売上高に応じた段階的ロイヤルティを受領する権利を保有

提携プログラムにおける進捗

- ニューロクライン社が、提携プログラムであるムスカリン受容体作動薬ポートフォリオの 2026 年の臨床開発計画を発表
 - Direclidine/NBI-1117568（M4 受容体選択的作動薬）について、統合失調症を対象としたフェーズ3試験を実施中で 2027 年、2028 年に結果公表予定。また双極性障害を対象にフェーズ2試験を実施中
 - NBI-1117570（M1/M4 デュアル作動薬）について、統合失調症を対象としたフェーズ2試験を実施中
 - NBI-1117567（M1 受容体作動薬（M1-preferring agonist））について、アルツハイマー病における認知症を対象としたフェーズ2試験を 2026 年中に開始予定
 - NBI-1117569（M1/M4 デュアル作動薬）について、アルツハイマー病における精神症状を対象とするフェーズ1試験結果を 2027 年に公表予定
- センテッサ社が、当社技術を用いて見出された2番目の新規オレキシン受容体 2（OX2R）作動薬 ORX142 について、早期開発段階のマイルストーンを達成（3.6 百万米ドル受領）、また神経精神疾患を対象に開発中の OX2R 作動薬 ORX489 について、早期開発段階のマイルストーンを2件達成（計 4.8 百万米ドル受領）

企業活動におけるハイライト

- 取締役の異動
 - 諸岡 健雄氏が社外取締役に就任
 - 社外取締役であった関 美和氏、永井 智亮氏が取締役を退任

2026 年 4 月 1 日以降のハイライト

- 提携先である Centessa Pharmaceuticals Limited（以下「センテッサ社」）が、Eli Lilly and Company（以下「リリー社」）と買収契約締結を発表
 - センテッサ社の OX2R 作動薬シリーズである clemimorexton/ORX750、ORX142 および ORX489 は、センテッサ社が当社独自の NxStaR™ 技術にアクセスできる提携のもと、センテッサ社と当社が共同で創製
 - 全ての OX2R 作動薬に関して、当社は一定のマイルストーンおよびロイヤルティを受領する権利を有し、その契約条件は本件取引によって影響を受けない

- 提携先であるリリー社との糖尿病及び代謝性疾患における複数のターゲットを対象にした研究開発・商業化に関する提携において開発マイルストーンを達成（金額は非開示）。本マイルストーンは全額、2026年12月期第1四半期の売上として計上
- 提携先であるニューロクライン社が、NBI-1117570について成人の統合失調症患者を対象としたフェーズ2試験を開始し、最初の被験者への投与を開始したことを発表。本フェーズ2試験の開始に伴い、当社はニューロクライン社より22.5百万米ドルのマイルストーンを受領。本マイルストーンは全額、2026年12月期第1四半期の売上として計上
- 台湾・台北を拠点とする台湾最大の医薬品流通・販売会社である提携先 Holling Bio-Pharma Corp.が、台湾食品薬物管理署（TFDA）より、QUVIVIQ®（ダリドレキサント、台湾製品名：科唯可®）25mg および 50mg について、不眠症の成人患者の治療を適応として販売承認を取得
 - 当社は製剤を供給し、Holling社は申請・承認、流通および販売を担う
 - 当社は販売に関する初期マイルストーンや、純売上高に対するロイヤリティおよび製品供給による収益を受領する権利を有する
 - QUVIVIQ®は、2026年中に台湾で発売予定
- 提携先である AbbVie Inc.との神経疾患における複数のターゲットを対象とした創薬提携において研究段階における3番目の重要なマイルストーンを達成。当社は10百万米ドルを受領。本マイルストーンは、その大半を2026年に、残りを2027年以降に収益計上予定

2026年12月期第1四半期（1月-3月）の業績ハイライト

- 売上収益は、前年同四半期（2025年1月-3月）比4,612百万円増加し、11,256百万円となった。これは主に、前年同四半期（2025年1月-3月）にマイルストーンの達成が1件であったことに対し、当第1四半期（2026年1月-3月）は7件のマイルストーンの達成があったことによるもの
- 研究開発費は、前年同四半期（2025年1月-3月）比780百万円減少し、3,028百万円となった。これは主に、複数の臨床開発プログラムの進展に伴う費用が減少したこと、及び研究開発の領域の重点的な絞り込みを進めたことによるもの
- 販売費及び一般管理費は、前年同四半期（2025年1月-3月）比131百万円減少し、3,570百万円となった。これは主に、経費削減に取り組んだことによるもの
- 上述の結果、営業損益は3,244百万円の利益（前年同四半期（2025年1月-3月）は2,193百万円の損失）となった
- 上記の結果、税引前四半期損益は3,043百万円の利益（前年同四半期（2025年1月-3月）は2,156百万円の損失）となった
- 上記の結果、四半期損益は1,793百万円の利益（前年同四半期（2025年1月-3月）は760百万円の損失）となった

- コア営業損益¹は 5,495 百万円の利益（前年同四半期（2025 年 1 月-3 月）は 625 百万円の損失）となった
- 2026 年 3 月 31 日における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ 8,767 百万円減少し、11,597 百万円となった

以上

ネクセラファーマについて

ネクセラファーマ株式会社は、テクノロジーに立脚したバイオ医薬品企業であり、日本および世界中のアンメットニーズにお応えし、患者さまの生活の質を向上させる新しいスペシャリティ医薬品をお届けすることを目指しています。

当社は、価値が高く大規模、かつ成長著しい日本および APAC の広範な市場で、複数の上市済み製品をはじめ、画期的な医薬品の開発・販売を行うアジャイルで次世代の商業化ビジネスを展開しています。

当社独自の「NxWave™」創薬プラットフォームを活用して、探索から後期臨床段階にある 30 品目を超えるプログラムからなる幅広いパイプラインの開発を、自社で、あるいは大手製薬企業やバイオ医薬品企業との提携により推進しています。このパイプラインには、ファーストインクラスまたはベストインクラスの候補化合物が含まれ、神経疾患・神経精神疾患、代謝性疾患、免疫疾患・炎症性疾患などの大きく成長する治療分野における主要なアンメットニーズにお応えすることに重点を置いています。

当社は、東京、大阪、ロンドン、ケンブリッジ、バーゼル、ソウルに主要拠点を展開しており、グローバル従業員が活躍しています。

詳しくは、ホームページ www.nxera.life/jp をご覧ください。

LinkedIn: [@NxeraPharma](#)

X: [@NxeraPharma](#)

YouTube: [@NxeraPharma](#)

¹ コア営業損益は、中核事業の経常的なキャッシュ創出能力を示すために、重要な非現金支出費用や一時的な費用を調整した代替的な業績評価指標